

回廊

この屋根付きの堂々たる回廊は、東側の鐘楼と中央の大講堂、そして西側の経蔵とを結んでいる。当初は塔と金堂とを囲んでいたが平安時代（990年頃）に現在のように改められた。

伽藍の中の柱の多くは、真ん中が少しふくらんだ、「エンタシス」と呼ばれる形状である。これは古代ギリシャの建築からの影響である可能性があると考えられている。回廊の東側は西側よりも長くなっている。これは、伝統的に中央にあった五重塔を西に動かし、金堂の横に配置するという、法隆寺の革新的な伽藍配置とのシンメトリーを実現するためだったと考えられる。